



財団法人柳田國男・松岡家
顕彰会記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原 1038
の12
電話：0790-22-1000

『遠野物語』出版百周年

記念講演会!!

7月17日(土)午後2時より

記念館にて

遠野物語研究所の石井正己先生にご講演していただきます。遠野物語がテーマです

石井正己先生著書『図説

遠野物語の世界』で柳田國男と佐々木喜善が情熱を注いでまとめられた『遠野物語』を豊富な資料と写真によって、その成り立ちとそこに語られた世界を探られています。

*記念講演会の申込不要。会員以外の方は入館料が必要です。



「遠野物語」発刊100周年記念のオリジナルフレーム切手

石井正己先生略歴

いしいまさみ
日本文学の研究者。専門は説話論、『遠野物語』研究で著名。1958年東京都生まれ。現在、東京学芸大学教授。また、岩手県の遠野市立図書館

長・遠野市立博物館長・遠野物語研究所客員研究員を兼務されています。

福崎の方言

福崎で使われている言葉に「マクレル」があります。これは「転げ落ちる、転落する」という意味です。

「孫が縁側からまくれた」。などと使います。

この言葉は、関西以西でよく使われているようです。昔の人は、着物を着ていたので、転ぶと着物の裾がまくれるから「まくれる」って言ったのではないのでしょうか？

また、垂直にストンと落ちることを「アダケル」と言っそうです。

くによはん覚書

かせかけみみず



むかし、みみずと墓がまがお互いに着物を作つて着ようと相談したそうです。

みみずは、「わたしは美しい着物を着たいから、細かい糸で念入りに作りますよ」といいました。

墓は、「なるだけ早く作つて着たいから、太い糸で作ろう」といつてさつそく仕事にとりかかりました。墓はそのとおり、太い、荒い糸で粗末な着物を、じきにこしらえて着ました。

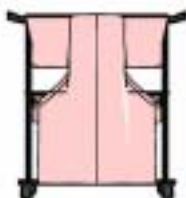
一方、みみずは細い、美しい糸で織つたので、大変手間がかかり、その時に糸でくしゅくしゅになり、糸をぐるぐるすると首の所にまきつけてしまいました。



だから今でもみみずは首のまわりに糸をまきつけたあとが残っているのだそうです。

また墓も今でも汚い様子をしているのも、その時の粗末な着物を着たままだからというわけです。

(柳田國男『日本昔話集』大分県大野郡上井田村。「直入郡昔話集」鈴木清美)



夏知識

大正四年から昭和二年六月にかけ、井上通泰(柳田國男の兄)は、明治初の万葉集の全歌注釈書『萬葉集新考』を発行した。
(『松岡五兄弟』より)

会員募集中!

財団法人柳田國男・松岡家顕彰会は、一昨年、会員制度を発足させました。入会者には会員証をお渡ししています。

法人会費 一〇〇〇〇円
個人会費 一〇〇〇円

特典

記念館無料入館

個人(本人+家族一名)
法人(一口・四名まで)
もちむぎのやかた
レストラン1割引他

